

## 第94回経営協議会議事要録

日時 令和元年6月21日（金）13時30分～15時00分

会場 大学本部棟5階 第1会議室

出席者（委員）

丸茂、赤澤、奥村、佐山、進藤、清水、中村の各委員

島田学長、早川理事、村松理事、袖山理事、杉山理事

（列席者）

鮎川監事、八巻監事、風間副学長、白沢相談役、山田学長補佐、小林総務部長、

松元財務管理部長、池田施設・環境部長、宝示教学支援部長、渡邊研究推進部長、

志村企画課長、深澤特命課長、石原総務課長、植松人事課長、田中財務管理課長、

佐藤医学域病院経営企画課長、

加勢企画課課長補佐、望月広報企画室長、植村総務課課長補佐

### 議事要録確認

第93回（元.5.31開催）の経営協議会議事要録を確認した。

### 審議事項

#### 1 国立大学法人山梨大学職員給与規程等の一部改正（案）について

袖山理事から、資料1により、人事院規則の改正に伴う「地域手当支給地域区分表」及び「学歴免許等資格区分表」の改正並びに医学部附属病院 ME センター所属の臨床工学技士に俸給の調整額を支給するため、標記規程等の一部を改正する旨説明があり、審議の結果、これを承認した。

- ・国立大学法人山梨大学職員給与規程
- ・職員の初任給、昇格、昇給等の基準に関する細則
- ・俸給の調整額支給規則

#### 2 平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書等（案）について

早川理事から、資料2により、各部署において実施した自己点検・評価結果について、評価室での検討を経て評価本部会議において国立大学法人評価委員会に提出する標記報告書の原案を作成し6月末日までに提出する旨説明があり、審議の結果、これを承認した。

#### 3 工学部情報メカトロニクス工学科の名称変更（案）について

早川理事から、資料3により、令和2年4月から、工学部情報メカトロニクス工学科の名称をメカトロニクス工学科に変更すること、工学部における学科の並び順を2番目とすること等について説明があり、審議の結果、これを承認した。

#### 4 大学間連携に係る準備委員会の設置（案）について

早川理事から、資料4により、5月23日の山梨県及び山梨県立大学との連携協定締結に伴い、山梨県立大学との大学間連携に係る準備委員会を設置すること、準備委員会は両大学から3名ずつ（6名体制）で組織し、事務を担当する総括準備事務室を設置すること、準備委員会では一般社団法人の基本事項や設立等に関する事項及び連携事業に関する事項（検討WGの進め方）について審議すること、具体的な連携事業については、検討WGで検討すること等について説明があり、審議の結果、これを承認した。

- 5 平成30年度決算（案）について  
杉山理事から、資料5（映像資料）により、平成30事業年度における財務諸表、決算報告書及び事業報告書の内容要旨について説明があり、審議の結果、これを承認した。
- 6 令和2年度概算要求（案）について  
杉山理事から、資料6により、機能強化経費（機能強化促進分）の要求事項について戦略ごとに整理した素案及び基盤的設備整備費について各学域等からの要求事項を整理した素案の説明があり、審議の結果、これを承認した。  
なお、この素案を以って、今後文部科学省への事前相談を進めながら精査していくこととなるが、今後の取扱いについては、学長に一任することとした。
- 7 山梨大学設備マスタープラン（案）について  
杉山理事から、資料7により、年度別設備整備計画について各学域等の回答を踏まえ内容を更新した旨の説明があり、審議の結果、これを承認した。  
なお、概算要求における設備整備の最終的な優先順位については、学長に一任することとした。

## 報告事項

- 1 教育研究評議会の開催状況について  
袖山理事から、資料8により、第183回教育研究評議会の開催状況について報告があった。
- 2 役員会の開催状況について  
袖山理事から、資料9により、第207回役員会の開催状況について報告があった。
- 3 その他
  - (1) 令和元年度学長等と外部有識者との意見交換実施状況について  
学長から、机上配付資料により、外部有識者との意見交換に係る内容要旨及び今後の意見交換の予定について、報告があった。
  - (2) 国立大学協会通常総会（元.6.11開催）について  
学長から、以下のとおり報告があった。
    - ・国立大学協会会長に永田恭介筑波大学長が選出されたこと。（前任者：山極壽一京都大学総長）
    - ・施設等環境基盤の老朽化問題への対応、並びに電子ジャーナル価格の高騰による研究経費圧迫問題への対応を国立大学協会総会の席上で問題提起をしたこと。

※ 次回会議 令和元年9月25日（水）13時30分から開催することを確認した。

## 学外委員からの意見等

### 審議事項

#### 2 平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書等（案）について

（清水委員）

文部科学省では、この実績報告書を基に注目すべき事項等を整理・評価することから、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）（平成30年11月26日・中央教育審議会）」で提言されている施策に関連した事項のうち、山梨大学が取り組んでいる事項を強調した方が良いのではないかと。

（早川理事）

本学の場合、例えばリカレント教育において、高度な大学院レベルの教育を行っていることなどが挙げられる。ご意見を参考に、実績報告書に強調して記載したい。

（学長）

文部科学省の資料となるため、ご意見を参考に、分かりやすく取り組みを強調できるよう記述を工夫したい。

#### 4 大学間連携に係る準備委員会の設置（案）について

（清水委員）

大学等連携推進法人（仮称）については、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）（平成30年11月26日・中央教育審議会）」で提言されており、現在、文部科学省が制度設計を進めている。

また、日本の高等教育の基本組織は、学部及び研究科であったが、今後は学位プログラムを新たに基本組織にしようとする議論されている。このように、日本の大学が大きく変わろうとする時に、新しい枠組みを積極的に活用して、地域に貢献できる人材を育成していきたい。

（島田学長）

今回の大学間連携でに伴い、山梨県の強力なバックアップを得たことから、競争的資金の積極的な獲得を目指していきたい。

#### 5 平成30年度決算（案）について

（進藤委員）

平成30年度決算報告書では収入と支出の差額が9億円の黒字となっているが、損益計算書では5億5千万円の赤字となっている。この差はどこから生じるのか。

（鮎川監事）

国立大学法人では、損益計算書は発生主義に基づき会計処理を行うこととされているが、例えば、現実に支出が発生していない減価償却費といった費用等が計上されている。一方、決算報告書は予算管理を基本に現金主義で作成されているため、減価償却費の費用等は計上されていない。これが、差額の生じる要因となっている。

### 報告事項

#### 3 その他

（奥村委員）

競争的資金（外部資金）はどの程度獲得しているか。

（田中財務管理課長）

本学の獲得した競争的資金（寄附金、受託研究、共同研究、受託事業等、科学研究費補助金）は、平成30年度実績では直接経費ベースで約27億円である。

（奥村委員）

メカトロニクス分野と医学分野の融合研究プロジェクトの実施などで、企業等から外部資金を更に獲得できるのではないかと。

(島田学長)

ご意見を参考に融合研究を更に推進したい。

(清水委員)

国立大学などで遊休地を活用して、収益を上げている事例があるが、山梨大学では、そのような土地の有効活用事例はあるのか。

(杉山理事)

現状では事例はないが、駐車場や農場の活用について検討を進めている。農場（育種試験地）の活用については、山梨中央銀行と協力して、活用を検討している。

(進藤委員)

育種試験地については、現地を確認し、ワイナリー等に照会するなど、検討を行っている状況である。

(学長)

アドバイスをいただきながら、検討を進めたい。

(奥村委員)

東京大学医学部附属病院などでは、病院の敷地内に調剤薬局を誘致（事業者の資金で施設を建築）し、その施設を有効活用しているが、山梨大学ではそのような取組を行っているか。

(佐藤病院経営企画課長)

附属病院の再整備を進める中で、敷地内薬局の誘致について、他大学の事例を参考に検討中である。